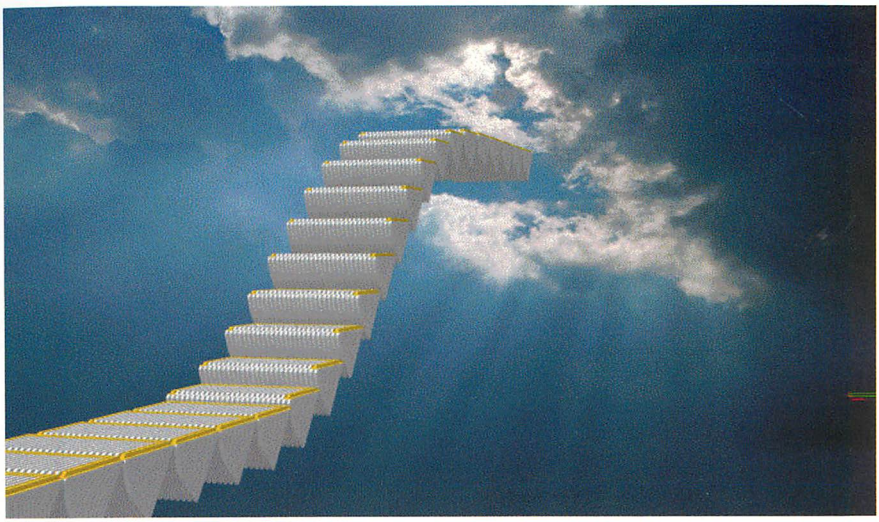
「天国で会いましょう」

See you again



新井 稔

「天国で会いましょう」

See you again

敬愛する皆様へ

本日は、私、新井 稔の前夜式（葬儀）にお集まりくださいまして本当に有難うございます。

敬愛する皆様へ

私は16年前、妻、順子の病気、召天を通してイエス様と出会い、これまでの自分勝手な、手探りのような確信のない人生から、イエス様に導かれつつ歩む本当に平安な人生へと変えられました。イエス様に導かれて歩む人生がいかに幸せであるか、是非皆様に知っていただきたく、少し証しをさせていただき、お礼の言葉とさせていただきたいと思います。

（イエス様との出会いは**「光よあれ（6集）」**に証しさせていただいております。）

“主イエスを信じなさい。そうすればあなたもあなたの家族も救われます。”

（使徒の働き 16:31）

初めて目にした聖書のこのみ言葉は、私の心を強く引きつけました。

“主を恐れることは知識の初めである。愚か者は知識と訓戒をさげすむ。”

（箴言 1:7）

“あなたの行く所どこにおいても、主を認めよ。そうすれば、主はあなたの道をまっすぐにされる。”

（箴言 3:6）

イエス様は私のような者をあわれんでくださり、わがままを赦してくださり、心の目を開いてくださったのであります。

皆様には、まだイエス様を目でみることは出来ませんが、この手紙が

読まれる頃、私は天国でイエス様と顔と顔を合わせてお会いしている に違いありません。

“今、私たちは鏡にぼんやり映るものを見ていますが、
その時には顔と顔とを合わせて見ることになります。
今、私は一部分しか知りませんが、その時には、私
が完全に知られているのと同じように、私も完全に
知ることになります。”

（第1コリント13:12）

“イエスが来て…それからトマスに言われた。…
信じない者にならないで、信じるものになりなさい。”

（ヨハネ20:27）

“…見ずに信じる者は幸いです。”

（ヨハネ20:29）

イエス様が私たち家族のために手を差し伸べてくださった救いの計画は、1989年（H1）妻、順子のガンという辛く悲しい試練でありました。

“わが子よ。主の懲らしめを軽んじてはならない。
主に責められて弱り果ててはならない。主はその
愛する者を懲らしめ、受け入れる全ての子に、
むちを加えられるからである。訓練と思って耐え
忍びなさい。神はあなたがたを子として扱って
おられるのです。”

（ヘブル12:5～7）

イエス様は順子を愛し、私たち家族を愛していてくださったゆえに試練を通して滅びの道から救い出してくださいました。イエス様は、その豊かな愛によって、順子を導きイエス様を信じる者へと変えてくださいました。そして、1989年（H1）12月10日、永遠の故郷、天国へ召してくださいました。その時、子供たちはまだイエス様を知りませんでしたが、イエス様は悲しみに打ちひしがれた子供たちのことも心配してくださり、順子の兄や姉、周りの多くの方々を通して支え、助け、育んでくださいました。

“わたしは、あなたがたを捨てて孤児にはしません。”

（ヨハネ14:18）



〈順子と共に〉

そして、子供たちの進学、東京への転勤、娘千穂の、家での一人生活…等々色々な変化がありましたが、イエス様はどこででも共にいてくださり、いつも励まし導いてくださいました。

“わたしはあなたに命じたではないか。強くあれ。
雄雄しくあれ。恐れてはならない。おののいては
ならない。あなたの神、主が、あなたの行くところ
どこにでも、あなたとともにあるからである。”

（ヨシュア 1:9）

1992年（H4）6月27日、私たちをこよなく愛してくれた義父（沢村征司）が召されました。そして、1994年（H6）8月14日、私たちにイエス様を紹介してくださり、家族の救いのために祈っていてくださった小川泰徳兄が召され、同年8月22日、長兄（新井栄一）が召されました。義父も長兄もイエス様を愛していました。イエス様は、宗教ともキリスト教とも関係のない天地万物の創造主であり、生きて全てを支配しておられる唯一真の神様だからです。

“神、その道は完全。主のみことばは純粋。
主はすべて彼に身を避ける者の盾。
まことに、主のほかにだれが神であろうか。
私たちの神を除いて、だれが岩であろうか。”

（詩篇18:30-31）

今頃は、私もイエス様のみもとで順子や裕一、沢村の父や小川兄や兄栄一、先に召された兄弟姉妹とも再会を喜び合って、にぎやかに過ごしているに違いありません。



〈小川泰徳兄姉、裕一、千穂と共に〉

“わたしの父の家には、住まいがたくさんあります。
もしなかったら、あなたがたに言っておいたでしょう。
あなたがたのために、わたしは場所を備えに行くの
です。わたしが行って、あなたがたに場所を備えたら、
また来て、あなたがたをわたしのもとに迎えます。
わたしのいる所にあなたがたをもおらせるためです。”

（ヨハネ14:2-3）

イエス様は、人一倍母親っ子だった息子、裕一をあわれんでくださったのでしょう、1998年（H9）3月6日、22歳で、母のいる天国へと引き上げられました。あまりに突然の出来事でした。私はイエス様の大きな御心にも豊かな愛にも気付かず、イエス様！どうして！なぜですか！と叫んでしまうような不信仰な者でありました。

まだイエス様のことをよく知らない娘、千穂にとって、弟を失ったショックとその悲しみはいかばかりだったかと思います。そんな娘をどのようにして慰めればいいのか、為す術のない惨めなあわれな父親でした。しかし、イエス様はそんな者を見捨てられることもなく、駆けつけてくださった兄弟姉妹とともに裕一の壊れた身体を囲んで祈りへと導いてくださいました。

“…わたしはあなたを見放さず、あなたを見捨てない。”

（ヨシュア1:5）

“わたしはあなた方のために立てている計画を
よく知っているからだ。それはわざわいではなくて、
平安を与える計画であり、あなたがたに将来と
希望をあたえるためのものだ。”

（エレミヤ29:11）

裕一の死は災いではない！イエス様が平安と将来と希望を与えてくださる！そんな思いが与えられ、少しづつ悲しみが癒されていきました。そして、ヘブル書のみ言葉が心に浮かんできました。

“信仰によって、エノクは死を見ることのないように
移されました。神に移されて、見えなくなりました。”

（ヘブル 11:5）

裕一のことを一番よくご存知のイエス様が、再び失うことのない永遠の喜びの中へ移してくださった、永遠の幸せを与えてくださった、そんな思いが与えられ、いつしか心は平安を取り戻し、イエス様の導きを感謝できるように整えられていました。

「親父、天国ってどんなとこなんだ？」裕一はよくそんなことを聞きました。私は、「天国は、人間の言葉では言い表せられないほどすばらしい所だから、聖書にあまり多くは書かれていないけど、親父が思うに、天国は人間の想像を超えた、驚くほどすばらしい所だと思うよ。例えば…裕一が一番好きな友達と、一番好きなことをして、お腹がペコペコになって、目の前に大好物の料理がいっぱい並べられ、さあどんどん食べてくださいと言われたときの、何十倍もすばらしい気持ちになれる所だと思うよ」などと間の抜けた話をしたこともあります。

“私はまた、聖なる都、新しいエルサレムが、
夫のために飾られた花嫁のように整えられて、
神のみもとを出て、天から下って来るのを見た。
…また、神ご自身が彼らとともにおられて、彼ら
の目の涙をすっかりぬぐい取ってくださる。
もはや死もなく、悲しみ、叫び、苦しみもない。”

（黙示録 21:2-4）



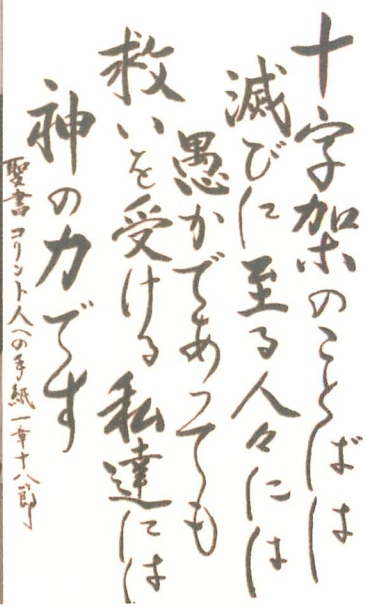
〈順子の家族とともに〉

これまで、親族やイエス様を信じる兄弟姉妹が幾人も召されました。同じ会社の同僚だった佐野兄も召されましたし、昨年（H17）10 月、次兄（新井 定）も召されました。召される直前まで兄が大切にしていたみ言葉です。

“イエスは言われた。「わたしは、よみがえりです。いのちです。
わたしを信じる者は、死んでも生きるのです。」”

（ヨハネ 11:25）





〈兄、定と共に〉

“私たちの国籍は天にあります。”

（ピリピ 3:20）

私の敬愛する、**ゴットホルド・ベック**さんは、いつかこんな話をしてくださったことがあります。「**ドイツには不幸は、故郷へ帰るための道しるべ、という諺があります。不幸は、まことの幸福を得るための手段にすぎません。だから不幸を知らない人は、ほんとうに気の毒です。**」と。

私はイエス様に救われて生き様が変わりました。イエス様を信じ、イエス様に導かれて歩む人生こそが、もっとも幸せな人生であると確信するようになりました。

イエス様は娘、千穂の救いについて、いつも働いてくださり導き続けていてくださいました。

“主イエスを信じなさい。そうすればあなたも
あなたの家族も救われます。”

（使徒 16:31）

梅田 勝くん（千穂の夫）との出会いもイエス様の導きでありました。二人が出会う一年ほど前から祈っていました。親娘で心を一つにして祈る時も与えてくださいました。「愛し合い、信じあい、助け合い、生涯寄り添うことの出来る人をお与えください。イエス様を信じる夫婦としてください。」

“だれにでも惜しげなく、とがめることなくお与えになる
神に願いなさい。そうすればきっと与えられます。
ただし、少しも疑わずに、信じて願いなさい。疑う人は、
風に吹かれて揺れ動く、海の大波のようです。そういう
人は、主から何かをいただけると思ってはなりません。”

（ヤコブ 1:5-7）

イエス様は祈りと願いを聞いてくださり、二人を出会わせ、結婚へと導いてくださいました。

“ほむべきかな。 主。
まことに主は私の願いの声を聞かれた。”

（詩篇 28:6）

“…創造の初めから、神は、人を男と女に造られたのです。それゆえ、人はその父と母を離れて、ふたりの者が一心同体になるのです。それで、もはやふたりではなく、ひとりなのです。
こういうわけで、人は、神が結び合わせたものを
引き離してはなりません。”

（マルコ 10:6-9）

2003 年 (H15) 12 月 1 日、孫の皓亮 (こうすけ) が与えられ、2005 年 (H17) 12 月 1 日葵 (あおい) が与えられました。生まれたばかりの小さな目、耳や口、手にはおもちゃのような指や爪、髪の毛の一本までもイエス様が造られ組み立てられたのです。イエス様の奇跡そのものです。

“それはあなたが私の内臓を造り、
母の胎の内のうちで私を組み立てられたからです。
私は感謝します。
あなたは私に、奇しいことをなさって恐ろしいほどです。
私のたましいは、それをよく知っています。”

（詩篇 139:13-14）

イエス様は、私の願った全てのことを聞きとどけてくださったのです。　背後には、いつもいつも兄弟姉妹の祈りがありました。ただただ感謝の思いでいっぱいです。

“ですから、あなたがたは、互いに罪を言い表し、
互いのために祈りなさい。いやされるためです。
　義人の祈りは働くと、大きな力があります。”

（ヤコブ 5:16）



〈千穂の家族と共に〉

アメリカの南北戦争で負傷した一兵士の作と言われる**[病者の祈り]**は、私の祈りそのものであります。

病者の祈り

大事をなそうとして、力を与えてほしいと神に求めたのに、
慎み深く従順であるようにと弱さを授かった。
より偉大なことができるように健康を求めたのに、
より良きことができるようにと病弱を与えられた。
幸せになろうとして富を求めたのに、賢明であるようにと
貧困を授かった。
世の人々の賞賛を得ようとして権力を求めたのに、
神の前にひざまずくようにと弱さを授かった。
人生を享楽しようとあらゆるものを求めたのに、
あらゆることを喜べるように生命(いのち)を授かった。
求めたものは一つとして与えられなかったが、願いはすべて
聞きとどけられた。
神の意にそわぬ者であるにかかわらず、
心の中の言い表せない祈りはすべてかなえられた。
私はあらゆる人の中でもっとも豊かに祝福されたのだ。

そして今回、イエス様は私自身に病を与えられました。2005 年 12 月半ばから、身体の変調を感じるようになり、2006 年 1 月 5 日検査入院、1 月 12 日結果説明。主治医の先生には全てのことを教えてくださるようにお願いしました。

すい臓がん・第4期・手術不可能　という説明でしたが心は不思議なほど平安でした。16 年前、妻の肺がんが宣告されたときは、真っ暗闇の奈落の底に突き落とされたような、絶望感でしたが、今回は全く違った思いでした。

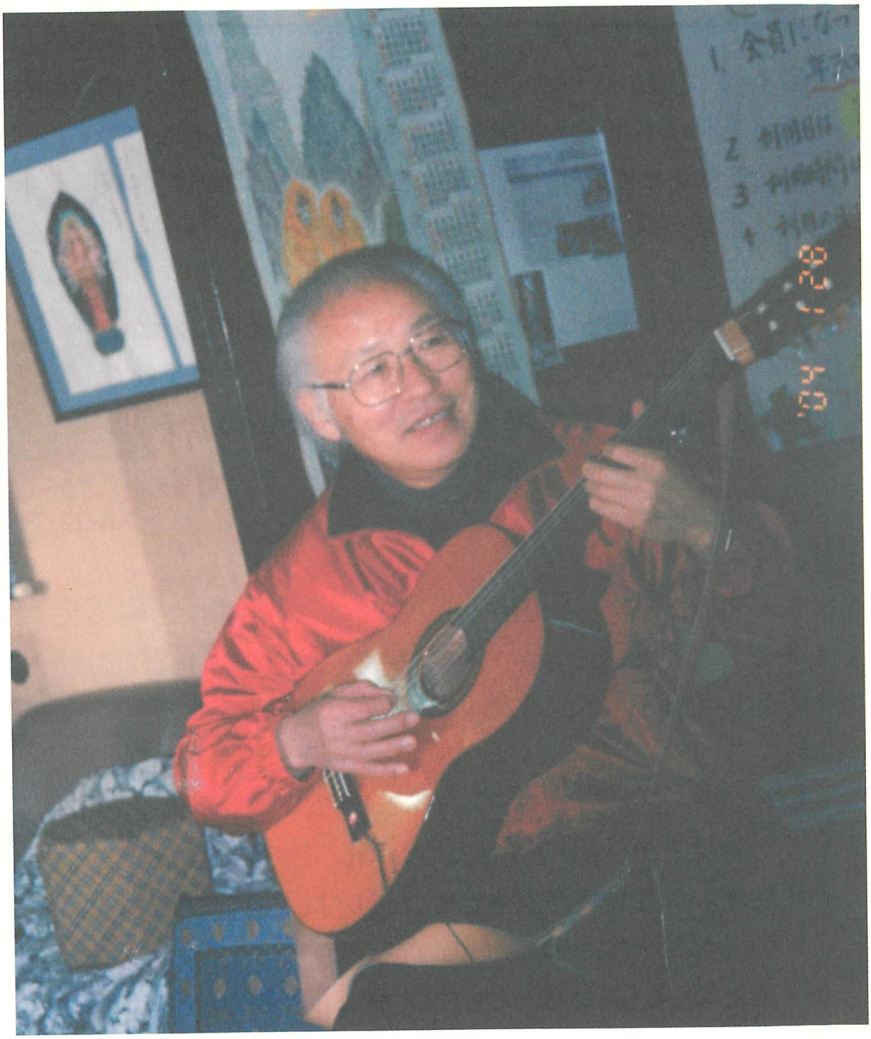
“わたしは、あなたがたに平安を残します。
わたしは、あなたがたにわたしの平安を与えます。
わたしがあなたがたに与えるのは、世が与える
のとは違います。あなたがたは心を騒がしては
なりません。恐れてはなりません。”

（ヨハネ14:27）

この平安はイエス様がくださったものだ、そう思いました。
イエス様は娘にも同じ平安を与えてくださるに違いない、そう確信できたゆえ、ありのままを話すことが出来ました。

“わたしはあなたがたのために立てている
計画をよく知っているからだ。主の御告げ。
それはわざわいではなくて、平安を与える
計画であり、あなたがたに将来と希望
を与えるためのものだ。”

（エレミヤ書 29:11）



たった一人の娘を、愛しいと思わない父親がどこにいるでしょうか。残された娘の将来を心配をしない父親などどこにいるでしょうか。娘とて父親との別れが悲しくないはずはありません。人間的には少しの間とはいえ、娘や親族、親しくしてくださった方や愛する兄弟姉妹と会えなくなることは寂しいことです。しかし、イエス様は、み言葉の約束通り、娘にも私にも平安と将来と希望を与えてくださったのです。
“全てのことを働かせて益とする”と約束してくださったイエス様は、今のことも必ず最善へ導いてくださるに違いありません。

**“…父が懲らしめることをしない子がいるでしょうか。
もしあなたがたが、だれでも受ける懲らしめを受けて
いないとすれば、私生子であって、ほんとうの子では
ないのです。”**

（ヘブル 12:7-8）

私たちの罪のために、なだめの供え物として十字架にかかってまで私たちを愛してくださるイエス様は、その大きな愛とあわれみゆえに人間的な思いを補って余りある平安を与えくださるのです。

**“神はそのひとり子を世につかわし、その方によって
私たちに、いのちを得させてくださいました。ここに、神
の愛が私たちに示されたのです。私たちが神を愛した
のではなく、神が私たちを愛し、私たちの罪のために、
なだめの供え物としての御子を遣わされました。
ここに愛があるのです。”**

（第Ⅰヨハネ 4:9-10）

娘のこれからの人生も様々なことがあると思います。辛いことも苦しいこともあるかも知れません。しかし、イエス様はどんなことがあっても娘のことを愛し続けてくださり助けてくださいますからこれに勝る喜びはありません。すべてのことをおゆだねし全てのことに感謝します。

“いつも喜んでいなさい。絶えず祈りなさい。
すべての事について、に感謝しなさい。”

（第Ｉテサロニケ 5:16-18）

“あなたの家を整理せよ。あなたは死ぬ。…”

（イザヤ 38:1）

人には必ず死が訪れます。しかし天国は永遠です。大切なのはこの世の命よりもイエス様を信じ、永遠の命にあずかることです。そのためにイエス様は十字架に架かって死んでくださったのです。イエス様は、私たちの罪の身代わりとなって十字架の上で死に、イエス様を信じる者の罪を赦してくださったのです。そして３日目によみがえり、死を滅ぼされ、イエス様を信じる者に永遠の命をお与えくださったのです。

イエス様を信じ、罪赦された者にとって、肉体の死は、天国への入り口です。そして、私たちはやがて、イエス様の再臨とともに栄光の身体に復活し、祝福に満ちた神の国で愛する人たちと、いつまでも生きることになるのです。



幸いなことよ、喜びの叫びを知る民は。
主よ。彼らは、あなたの御顔の光の中を
歩みます。

詩篇八九・十五

〈高山ミニキャンプにて〉

“イエスは言われた。「わたしは、よみがえりです。いのちです。
わたしを信じる者は、死んでも生きるのです。」”

（ヨハネ 11:25）

私にとって、62年半の人生は、ほんとうにすばらしいものでした。悲しかったことも、辛かったことも、かけがえのないものばかりです。イエス様がともに歩んで下さったからです。そして皆様との出会いがあったからです。

私、新井 稔の肉体は死にました。でも私の霊は天国で今も生きています。皆様ともほんの一時的な別れです。ですからどうか悲しまないでください。

“見よ。神の幕屋が人とともにある。神は彼らとともに
住み、彼らはその民となる。また、神ご自身が彼らと
ともにおられて、彼らの目の涙をすっかりぬぐい取って
くださる。もはや死もなく、悲しみ、叫び、苦しみも無い。
なぜなら、以前のものがもはや過ぎ去ったからである。”

（黙 21:3-4）





〈名古屋集会の兄弟姉妹と共に〉

＜See you again＞

皆さんと、また天国でお会いしたい、それが私の切なる願いです。

在主

天国で会いましょう

発行者　新井稔

編集　河合 徹
CD編集　那須 信
発行所　名古屋キリスト集会